

薬学実習 1

責任者・コーディネータ	分析化学分野 藤本 康之 准教授		
担当講座・学科(分野)	薬学教育学分野、分析化学分野、機能生化学分野、生体防御学分野		
対象学年	2	区分・時間数	実習 75 時間
期 間	後期		
単 位 数	3 単位		

・ 学習方針（講義概要等）

薬学実習 1 では、機能形態学、分析化学、生化学、微生物学等に関連する各講義で学ぶ事柄や、各専門分野において必要となる知識と技能について、実験を通じて理解し身につける。また、実験結果を総合的に考察し、レポートを作成する能力を育成する。さらに、製薬企業の工場を訪問し、製剤と創薬の現場を見学することにより、製薬業務とその社会的責任・倫理についての理解を深め、医療や医薬品を巡る社会的な動向について意識する態度を身につける。実習と工場見学をリンクすることで、薬学部で学ぶ知識や手技が現場において重要であることを理解し、主体的に学ぶ姿勢を習得する。

・ 講義日程

(矢) 西 106 1-F 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/2	金	3	分析化学分野	藤本 康之 准教授	薬学実習と工場見学のガイダンス 1. 薬学実習・工場見学の意義と注意点を説明できる。 場所：西 106 1-F 講義室 事後学習：実習と工場見学の注意点を確認し、準備を整える。
9/2	金	4	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	基本的操作の習得 1. 顕微鏡を正しく取り扱うことができる。 事後学習：顕微鏡の使い方について、資料を確認する。
11/17	木	1・2	分析化学分野 分析化学分野 機能生化学分野 生体防御学分野	藤本 康之 准教授 牛島 弘雅 助教 関谷 瑞樹 助教 錦織 健児 助教	工場見学【フィールドワーク】 1. 製薬業務とその社会的責任・倫理について説明できる。 2. 薬学部で学ぶ知識や手技が現場において重要であることを説明できる。 事前学習：見学先の企業理念や製造している医薬品について調べる。 事後学習：工場で見聞したことと、これまでに大学で学んだことを関連付けつつ報告書を作成する。

・ 成績評価方法

各講座の担当する実習全てに合格することを原則とし、各実習の評価を総合して評価する。

・ 特記事項・その他

- ・ 集合場所について担当分野からの指示が記されている場合は、それに従うこと。記載がない場合は、各実習時期に担当分野の指示に従うこと。
- ・ 実習内容に関連した企業の工場見学を下記日程にて実施する。
- ・ 11月17日（木）1～4限（調整中）。詳細については別途指示します。
- ・ 授業に対する予習・復習の時間はそれぞれ最低45分を要する。